

農事組合法人 こめ・こめ・くらげ（杵築市山香町福林）

【経営の概要】

経営形態	生産組織（特定農業法人）
モデルの種類	中山間地モデル
設立時期	（総会）平成18年 1月27日 （登記）平成 18年 2月 1日
構成戸数	5 戸
労働力	基幹4名、補助1名

【経営規模 (ha)】

	経営面積	水 稻	麦 類	大 豆	作業受託
			二条大麦		
平成19年	11.3	1.9	7.3	4.6	延べ23.9
平成20年	17.2	8.9	7.5	5.7	延べ43.5
平成21年	18.2	10.9	7.5	5.7	延べ44.8

【機械装備】

トラクター	2 台	機械格納庫	1 棟
田植機 6条植	1 台	ライスセンター	1 棟
コンバイン 4条刈	1 台	畦塗機、播種機など各種アタッチメントも所有	
動力噴霧機	1 台		
乾燥機	3 台		

【経営の特徴】

中山間地域における担い手型の集落営農法人として、有志5名で発足した。その後、地域での活動が認められ平成19年に特定農業法人となった。徐々に経営面積も拡大しており、地元地区以外からの作業受託も増加している。また、地産地消にこだわる地元酒造メーカーと連携し、平成18年より焼酎用麦の栽培に取組み、平成21年度からは酒造好適米の栽培も開始した。

【導入した新技術】

◎浅耕一工程播種技術（大豆）

（手法）麦跡大豆栽培において、播種前に耕起せず、耕地、施肥、播種を同時に行う。この場合、耕起は浅めに行うことで排水を安定させる。

（結果）本技術は、播種時に降雨の多い年に有効である。平成20年度は、降雨が少なく、通常の播種でも問題がなかった。平成21年度は、播種時期に降雨日が多く、播種が遅れたが、浅耕一工程播種を行った圃場では出芽苗立ちは良好であった。

（留意点）圃場が入れる程度の乾燥状態で行う必要がある。

◎土壌分析に基づく緩効性肥料による省力型追肥（麦）

（手法）麦の追肥作業の省力化のため土壌分析した上で、緩効性肥料を使用し追肥を行う。

（結果）

調査圃場は同一圃場

年度	pH	EC	有効態リン酸	陽イオン置換容量	交換性塩基 カリ
20年度	5.2	0.05	13.9	14.9	0.7
21年度	5.3	0.07	19.4	15.5	0.9

pHは低く、ECについても低いいため通常の施用が必要であると判断した。

◎一条畦立播種技術（大豆）

（手法）大豆を播種する際に簡易畦立機（ちかのりくん）をトラクターに取り付け、一条ごとに畦立てを行う。

（結果）平成20年度は、全面積で実施し、出芽苗立ちの向上に役立った。平成21年度は播種時期が遅れたため条間を狭めて播種を行った。このため畦立ては2条に一本と変則的になったが、出芽苗立ちは良好であった。

（留意点）作業適期では、一条畦立てが適しているが播種が遅れた場合は一度に4条播種して2条に一本とするか簡易畦立機を2基用意して、一条畦立てとするのが効率的である。

◎自脱型コンバインによる収穫（水稻・麦）

（手法）自脱型コンバイン（4条刈）を使用して、水稻・麦の収穫作業を行う。

（結果）平成20年度は、水稻・麦で約16haの収穫を行った。平成21年度には約18haの収穫を行った。町内では、（農）こめ・こめ・くらぶを参考に今までの3条刈りから4条刈りコンバインの導入が増加しており、波及効果が出ている。

◎その他特徴的な取組

冬季の労力を有効活用するためのため平成20年度より椎茸栽培を開始した。

◎主な波及活動

- ・平成20年度は1月にモデル経営体意見交換会で取組内容の報告と意見交換を行った。
- ・平成21年度は、6月に大豆栽培研修会を管内の農家を集めて杵築市山香町で開催し、（農）こめ・こめ・くらぶの取り組みを紹介した。

（視察研修受け入れ状況）

- ・平成19年に特定農業法人になると中山間地域の担い手型集落営農法人としての注目を集め、県内から視察が来訪するようになり、組織設立の助言等を行った。
- ・平成21年度は、東部地区集落営農法人リーダー養成講座の法人事例紹介で（農）こめ・こめ・くらぶの実績発表を行い、管内の特定農業団体のリーダーと意見交換を実施した。また、杵築市集落営農組織連絡協議会の相互訪問で優良事例として麦の排水対策ならびに播種について現地研修を行った。

【経営状況】

（10aあたり）

	労働時間(県平均比)	全算入生産費(県平均比)	所得
経営全体	9.2hr (44%)	64,500円 (67%)	4万円
水稻	13.4hr (64%)	91,000円 (62%)	
麦	8hr (57%)	51,000円 (91%)	
大豆	5.1hr (37%)	32,000円 (83%)	